

名古屋支部

視察見学会

名古屋支部（永井弘児支部長）は、令和5年3月15日（水）に支部会員27名が参加し、静岡県御前崎市にある「(株) プラニック」と「浜岡原子力発電所（中部電力）」（以下、「浜岡原子力発電所」という。）を視察しました。

(株) プラニック（静岡県御前崎市港 6177-1）は国内最大級のリサイクルプラスチック製造事業会社で、自動車や家電製品由来、家庭で使用されている製品が混在したプラスチック（ミックスプラスチック）を原料とし、再び自動車部品や家電製品の原材料に使用可能なリサイクル原料を製造しています。

これまで、自動車由来のミックスプラスチックは、材料ごとの選別が困難なことからマテリアルリサイクル（再資源化）されず、焼却処分（熱回収）されてきました。しかし、プラニックが国内で初導入した最新技術により、自動車部品などの原材料に使用可能となる高品質な再生プラスチックの生産ができるようになり、自動車部品由来のミックスプラスチックを原料とした Car to Car リサイクルが実現します。



「(株) プラニック」にて記念撮影

この最新技術は PP/PE/PS/ABS 等の複合品を破砕・ふるい・風力選別を経て、重液から水よりも比重の軽い軽液の4タイプの液による比重選別を行いポリプロピレン（PP）とポリエチレン（PE）を選別し、ペレット製品として自動車部品や家電、物流資材の原材料に、また、その後、静電気により、ポリスチレン（PS）とABS樹脂（ABS）に選別し、フレック製品としてコンパウンダー経由で家電や日用品の原材料として使用される。

同社御前崎工場では、年間約4万トンの廃プラスチックを受入、約3.2万トンのリサイクル原料の生産を目標としています。これまで熱回収されてきたプラスチック資源を再資源化することによって

サーキュラーエコノミーの実現に寄与します。また、8千トンの残渣の活用ルートの研究が課題とのことでした。丁寧な説明をいただいた(株) プラニックのジョイントベンチャーであるヴェオリア・ジェネット（株）の溝口昌澄様と山田一雅様に感謝を申し上げます。

浜岡原子力発電所（静岡県御前崎市佐倉 5561）の1号機、2号機は2009年1月に運転終了し、廃止措置中です。3号から5号機は東日本大震災による「福島第一原子力発電所（東京電力）」（以下、「福島第一原子力発電所」という。）の事故により2011年5月に内閣総理大臣からの要請を受け運転中止となり、その後に施行された新規制基準への適合に向け様々な対策が取られ、現在、3、4号機は新規制基準への適合性確認審査中であり、5号機は適合性確認申請準備中とのことでした。

見学に当たり、発電所敷地内のセキュリティが非常に厳しく、身分証明証の提示が求められ、また、重点区域に入るときには金属探知機による検査が必要なゲートが二か所ありました。



浜岡原子力発電所敷地内にある「浜岡原子力館」にて記念撮影

福島第一原子力発電所の事故を教訓として、浜岡原子力発電所の安全性の更なる追求として、①巨大地震に耐える ②津波を侵入させない ③冷やす能力を確保し、重大事故に至らせない ④重大事故の発生に備える ⑤現場の総力を結集する ⑥安全性をさらに追及するためとして万全の対策が講じられていました。視察に際して数々のご配慮を頂きました総括・広報グループ専門部長の榊原浩之氏並びにご案内いただきました皆様に参加者一同深く感謝を申し上げます。

今回の視察研修に参加し、参加者全員が、貴重な知見を得たことを感謝し、帰路につきました。